

決勝は尚志—富岡

来月2日 ともに2年ぶり進出

全国
高校サッカー
県大会

第92回全国高校サッカー選手権大会県大会(県サッカー協会、県高体連、福島中央テレビ主催、読売新聞社など後援)は26日、鏡石町の鳥見山陸上競技場で準決勝2試合が行われた。尚



志は郡山商に5-0で快勝し、富岡は福島東に1-0で競り勝った。尚志、富岡ともに2年ぶりの決勝進出。決勝は11月2日午後0時10分から、同競技場で行われる。

◇準決勝
尚志 5 (4 1 0) 0 郡山商

尚志、好機逃さず

尚志は前半37分、FW田鹿が先制点を決め、流れをつかんだ。後半は中央やサイドを幅広く使ってゴールに迫り、好機を逃さず4得点を挙げ郡山商を引き離れた。

郡山商はシュート4本を放ったが、尚志の堅い守りを崩せなかった。

悔しさバネに
得意の形で先制

昨年の悔しさをバネに振り切ったFW田鹿富夢選手(3年)の左足が、尚志を決勝進出に導いた。

昨年の県大会には、2011年度に全国ベスト4入

先制点となるシュートを放つ尚志・田鹿選手(右)

りを果たしたチームにかかると期待を背負って臨んだ。しかし、準決勝で得点できず、チームも敗退した。昨年の反省から、練習ではゴール前の左サイド寄りの位置からパスを受け、左足でゴールの右上を狙う「得意なパターン」を繰り返した。

試合開始直後は思うように得点できなかったが、田鹿選手は冷静だった。前半終了間際の37分、「得意なパターン」で回ってきたパスに「無意識に足を振った」。この1点でチームに勢いが付いた。田鹿選手は「練習が生きた。決勝でも点を取り、今年こそ全国大会に行きたい」とリベンジを誓った。

富岡は前半から6本のシュートを打つも決まらず、両者無得点で後半に突入。後半21分、MF佐藤大悟が

キーパーの股を抜くシュートを決め、この1点を守りきった。

富岡はカウンターでゴールを狙ったが、得点に結びつかなかった。

気迫、得点ならず
「決勝で爆発」誓つ

富岡のFW高木洋輔選手(3年)は、気迫あふれるプレーでゴールに迫るも点を取れず、「決勝では爆発したい」と誓った。

身長1.68と小柄だが、がっしりした体形。ディフ

エンスからの当たりに強く、今大会も3得点と活躍する。佐藤八監督も「どんな前に出て点を取ってくれる」と太鼓判を押す。この日も前半からセンタリングに合わせて頭から飛び込んだり、オーバーヘッドぎみに体をひねらせてシュートを狙ったりと攻め立てたが、点に結びつかなかった。

「緊張で体が硬かった」と高木選手。「チームで1番点を取るの自分だと信じている。決勝こそ点を取りたい」と力強く話した。

◇準決勝
富岡 1 (1 0 0) 0 福島東

富岡、後半1点守る

富岡は前半から6本のシュートを打つも決まらず、両者無得点で後半に突入。後半21分、MF佐藤大悟が